

# サーیسフェー訪問団が来訪

スイスの山岳都市・サーイスフェー村からの訪問団が、5月16日から18日にかけて3日間、安曇野市を訪れました。



堀金総合支所



穂高神社

スイス・サーイスフェー村のフェリックス・ツルブリッケン村長はじめ7人の訪問団が、5月16日から18日の3日間、市内に滞在しました。

滞在中は、長峰山や穂高神社などの観光スポットを訪れたほか、ごみ焼却施設・穂高クリンセンターや、その余熱を利用したあづみ野ランドを見学し、安曇野市の環境への取り組みを視察しました。穂高クリンセンターの見学では、穂高広域施設組合で実験的に取り組んでいるバイオマス発電や、家庭でのごみの分別方法などに関して熱心に質問する姿が見られました。

また、環境保護に関して世界でも先進的な取り組みを行っています。4年前、同村のサイモン・ブーマン観光局長が安曇野を訪れた際、同じ山岳観光を産業とするこの地域に興味を持ち、安曇野市誕生を機に、市へ都市間交流を提案。昨年8月、平林市長らが合併前から交流のあるオーストリアのクラムザッハを訪問したのに併せサーイスフェーを訪れたことをきっかけに、今回の来訪が実現しました。

滞在2日目に行われた歓迎レセプションでツルブリッケン村長は、「観光都市として発展していくため、積極的に意見やアイデア、経験を交換したい」とあいさつ。平林市長は、「環境先進地であるサーイスフェーから我々が学ぶことは多い。形にとらわれず、目的を持った内容ある交流が進むことを期待する」と、今後の展望を述べました。

## 国内友好都市との交流：三郷サミットが開催されました

第21回三郷・安曇野友好都市交流推進協議会が5月21日と22日、安曇野市で開催されました。

同協議会には、3市町の首長や議会議長、職員などが出席して、平成18年度の事業報告や今年度の事業計画や予算などを決めました。また、市内の大王わさび農場や田淵行男記念館などの視察も行いました。

同協議会は、同じ名前が縁で埼玉県三郷市と奈良県三郷町、旧三郷村の間で友好都市提携が結ばれて発足し、住民同士の交流をはじめ、各市町のイベントなどへの参加、防災担当者会議の開催などを行っています。



スポーツ・文化事業を通じた民間交流の支援を行うことを決めた

## 国民健康保険税 国保税減免制度の改正案を答申

### 国民健康保険税



平林市長に答申書を手渡す青柳会長と二木茂光副会長

国民健康保険運営協議会(青柳和水会長)は6月22日、生活困窮者などを対象にした国保税減免制度について、平林市長に答申しました。

答申では、国保税の減免に対して税負担の平等と公平性を図るための改正案を示しました。案では、新たに所得の減少の割合に応じて免除の率を決める基準、国民健康保険法第59条(少年院・刑事施設・労務場等に拘禁された保険者)に該当する被保険者の基準を設けるといった内容のほか、災害の定義の明確化についても答申しています。この答申を踏まえた改正案は、6月定例会に提出されました。

## 市内全域での活動に向けて、組織を一本化

### 消費者の会

安曇野市消費者の会設立総会が5月16日、豊科ふれあいホールで開かれました。

消費者の会は、消費者の立場からさまざまな問題を考え、実践する団体です。これまで豊科・穂高・明科地域に設立されていた各会を支部とし、組織を一本化してスタートし、本年度は、各支部で行ってきた活動のほかに、全会員を対象とした活動や、三郷、堀金支部の発足に取り組む予定です。会長には、豊科の小福敬子さんが選出され、会員数は124人となりました。



設立総会には、各支部から約60人が参加した

## 第2期地域審議会がスタート

### 地域審議会

5地域ごとに設置され、市長の諮問に応じ、審議・答申をしたり、各地域の課題などを検討する地域審議会(第2期)の委員委嘱書交付式が4月27日、堀金総合支所で開かれました。

この日は、公募委員を含む各地域15人ずつの75人が平林市長から委嘱書を手渡されました。また、第1期地域審議会の経過やまちづくり計画の概要説明なども行われました。その後、各地域審議会に分かれて、第1回地域審議会が開かれ、正副会長の選出などを行いました。委員の任期は、平成21年3月までです。

※各地域審議会の委員は、27ページに掲載しています。



平林市長から地域審議会委員1人ひとりに委嘱書を手渡された